

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104514
法人名	医療法人 慈孝会
事業所名	グループホームふくずみ
所在地	松山市福角町甲616-1
自己評価作成日	平成24年7月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年7月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

お一人お一人を大切に和と穏やかさを大切にという理念の基、日々お世話をさせていただいています。ホームは静かな住宅地で田園に囲まれ、併設のデイサービス・多機能型とは、廊下を経てつながっており、行き来が自由で開放感がある作りになっています。趣味や行事などデイサービスや多機能型の利用者様と一緒に活動することが出来ます。中庭や玄関には季節の花や野菜を作って楽しんでいます。散歩やドライブ、買い物なども出来る限り取れいれています。日々、お一人お一人に安心して楽しく暮らしていただけるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●家族会は、ご家族が出席しやすいよう、クリスマス会やひな祭り等の行事と合わせて開催されている。出席できなかったご家族には、資料を送付して、会の内容をお知らせしている。お弁当を持参して来訪されるご家族もあり、事業所で温かいお汁とお茶を用意して一緒に食事できるよう心遣いされている。又、ご家族が集まり一緒に食事する「食事家族会」の機会を作っておられ、親睦したり事業所の食事について、意見や要望を聞き取っておられる。ご家族は、職員が利用者に対して、笑顔でやさしく接する様子をよく見ておられ、職員のよい雰囲気を感じて、訪問もしやすいと感じておられる。

●利用者と一緒に食材の買い出しに出かけられたり、事業所の菜園で採れた野菜も使って食事作りがされている。職員は、利用者にも魚のさばき方等、調理法を教わることも多いようだ。箸、お茶碗、湯飲みは、利用者一人ひとりの使い慣れた馴染みのものを使用されており、調査訪問時の昼食は、酢の物をガラスの小鉢に盛る等、季節感や彩りにも工夫が感じられた。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 小規模多機能施設ふくずみ

(ユニット名) グループホームふくずみ

記入者(管理者)

氏名 大久 朱実

評価完了日 平成24年 7月 11日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>(自己評価) 地域に解け込み地域に根ざすグループホームを行動指針に入れ、ミーティングや会議等にて全員で復唱、共有している。</p> <p>(外部評価) 「お一人お一人を大切に、和と穏やかさを大切に」と事業所理念を掲げておられ、管理者は、日頃から「理念は、利用者の生活にどのような課題があり、どのようなケアが必要かということを考える際の拠り所となる」ことを、職員に話しておられ、職員は、管理者のケアへの姿勢をお手本にしながら、日々、理念の実践に取り組まれている。運営推進会議の資料には、毎回、理念を明記されており、又、出席者全員で理念を復唱して、ご家族や地域の方にも理念を理解いただき、共通認識で取り組めるようすすめておられる。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議などに地域の人に参加していただいたり、地域の祭り、いのこなどにも参加させていただいている。日常的には買い物・散歩・ドライブ等により交流を深めている。</p> <p>(外部評価) 23年度は、「地域に認知症の理解を呼びかけ、地域との交流を深めていく」「地域行事へ積極的に参加し、地域の方が気軽に立ち寄っていただけるような体制作りをする」と、目標を決めて取り組まれた。事業所の隣には公民館があり、行事の際には事業所の駐車場も使用していただけるよう案内されている。地域の夏祭りは、併設事業所と合同で、唐揚げの出店を出し、人気があった。秋祭りには、子供みこし・大人みこしが来てくれたり、子ども達は、亥の子を搗きに來てくれたりしている。最近、隣家の方がUターンして引っ越して来られ、利用者や職員は庭ごしにあいさつする等して交流が始まっている。事業所では、「今後さらに、隣の公民館の活動や敬老会等の行事に参加したい」と考えておられる。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議や家族会など(参加者が地域の人)、認知症の人の支援の方法や理解をしていただけるよう資料説明等で働きかけた。地域の活動の中に入って行けたらと考えている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 各利用者の状況や行事・レクリエーション、防災訓練、ヒヤリハット、事故防止対策、業務改善等話し合い、地域のいろいろな情報や、意見を頂き活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議には、民生委員やご家族、利用者も出席されており、1月からは併設の小規模多機能事業所と合同で開催されている。昨年の12月には、家族会・クリスマス会を兼ねて会議を開かれ、事業所の活動に対して地域の方から、「あったかいホームですね」と感想をいただいた。年間計画を立て会議をすすめておられ、今後は、外部評価結果の報告や徘徊模擬訓練の実施等を予定されていた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議には必ず案内をし会議録をFAX、疑問点等、アドバイスを頂いている。	
			(外部評価) 地域包括支援センター主催のグループホーム・小規模多機能事業所連絡会に出席されており、同業者と意見交換を行っておられる。市の担当者が、運営推進会議に出席していただき、「利用者中心のレクリエーションや入浴支援に取り組んでほしい」とアドバイスをいただいた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 「指定基準における禁止の対象となる具体的な」を掲示している。勉強会などで自分たちのケアを見直し利用者の安全で安心な生活ができるよう努めている。	
			(外部評価) 玄関前の段差はブロックを積んで階段を作っておられたが、今年の春、スロープと手すりを設置して、利用者が出かけやすいように改善されていた。事業所は、併設のデイサービスや小規模多機能事業所と廊下でつながっており、利用者は、自由に行き来されている。落ち着かない状態の利用者があると、職員は、庭の散歩や、時には買い物に誘い、ご本人が気分転換できるよう支援されている。事故を未然に防止できるよう、職員の気付きを書き留める「気付きファイル」を作り、職員間で情報を共有されている。転倒の心配があり、ベッド柵を付けている方が1名あり、現在、ご家族とも話し合っ「ベットの柵を1点にできるよう」検討されている。利用者の自由で安全な環境作りに向けて、今後もケアに工夫できることはないか、利用者の立場から考え続けていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加し、勉強会を行っている。高齢者虐待防止法を掲示し、常に意識してケアにあたり、防止に努めている。虐待が見過ごされないよう職員間で日ごろから話し合ったり、情報交換に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在後見人等の利用をされているかたはいないが、制度を理解し、ケースに応じて利用していく。スタッフが代わるわたので制度について学ぶ機会を検討中。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約前から見学や説明等随時行い、契約時にも十分説明し、理解、納得していただき、快適に安心して生活していただけるように努めている。その上で契約を行なっていただけるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関前に意見箱を設置している。年に2回家族会を行なっている。また月々の支払い時や面会時などにも意見や要望を言っただけのよう配慮している。	
			(外部評価) 家族会は、ご家族が出席しやすいよう、クリスマス会やひな祭り等の行事と合わせて開催されている。出席できなかったご家族には、資料を送付して、会の内容をお知らせしている。お弁当を持参して来訪されるご家族もあり、事業所で温かいお汁とお茶を用意して一緒に食事できるよう心遣いされている。又、ご家族が集まり一緒に食事する「食事家族会」の機会を作っておられ、親睦したり事業所の食事について、意見や要望を聞き取っておられる。ご家族は、職員が利用者に対して、笑顔でやさしく接する様子をよく見ておられ、職員のよい雰囲気を感じて、訪問もしやすいと感じておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>日常のケアの中で、提案や疑問意見などを率直にはなしあっており、月に1度のミーティングや運営委員会で、更に意見が反映されるよう努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>今回、自己評価を実施し、管理者は、「職員が項目をしっかり読むことで、グループホームのあり方や事業所の課題点等が明確になった」と成果を感じておられた。今年度の目標に、「日々のケアに生かせる学びに努める」と掲げておられ、職員は、法人や事業所内の勉強会に積極的に参加されている。「ふくずみ新聞」は、現在は発行されていないが、事業所では、今後、併設事業所と合同の新聞を発行できるよう、担当者も決め準備をすすめておられた。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>センター長が年2回面談を実施し意見や要望を聞き意思の疎通を図っている。現場の細かな状況や、変化までは把握しがたく、問題は多いと思われる。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>グループホームの目標として年に2回は研修に必ず参加することをあげている。より質の高いケアに努め、職員一人一人の持ち味を引き出して活かせるよう努めている。公休などを使っての研修が多く、勤務時間での参加は人員確保の面からなかなか難しい。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>法人内の勉強会を積極的に行っており、交流も図っている。GH・小規模多機能型居宅介護事業所連絡会に参加し、ネットワーク作り等取り組み中である。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>本人や家族からの聞き取り、医師や関係スタッフからの情報提供・意見書・看護介護要約等からの情報の把握に努め、本人をよく知り今までの生活を出来るだけ維持する事で安心して暮らして頂けるよう努めている。一週間以内でプランを立て統一したケアをしている。センター方式を活用。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居される前から見学してもらい、情報交換し合う。入居後は本人が安心して暮せるよう出来るだけ来所して頂き、安心して頂けるよう関係作りに努めている。随時不安や、要望を聞き家族にも安心していただけるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族、関係機関の声を聴き診療情報提供・看護介護要約・意見書等から必要な支援を見極めるよう努めている。必要に応じ他のサービスについても説明・案内をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) これまでの人生で培ってきた経験や知識などを教えていただいたり、出来る限りできることを提供し、役割を持っていたき、共に楽しみ暮らせるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) できる限り家族との交流が持てるよう、声かけや状況報告をし、面会・行事等に一緒に参加してもらえよう呼びかけている。また家族での外出や外食などにもしていただいている。家族との交流が途絶えないよう考慮していく。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みのある人や物などを知る。ご家族に協力を得、使われていたダンス・写真・小物などを部屋に、持ってきていただいたり馴染みの方に連絡や面会に来ていただいたりしている。また懐かしい場所などをお聴きし、ドライブなどに出かけたりしている。 (外部評価) 併設のデイサービスに通って来られる顔なじみの方に会いに行かれたり、「海を見たい」という方には、買い物の帰りに海を見に回られ、利用者の方は、目の前に浮かぶ島の名前を懐かしそうに思い出され、昔話をされようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々に応じたライフスタイルを尊重しながら、行事や外出時には共に暮す仲間として関係性や席などを配慮し関わりを深められるよう努めている。更に和が保てる関係作りに努めていく。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了しても、本人を訪問したり、関係者に情報をもったりして経過をフォローできるように努めている。一時的な入院後の相談や施設等の連絡調整にも応じており、関係を継続していけるよう支援している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々のケアの中で、言動や表情の中から、その真意を図り、確認するようにしている。意思疎通困難な方には、家族にも情報を得るようにしている。更に、一人一人の意見を反映できるように表情やしぐさなど汲み取るように努めている。 (外部評価) 入居時は、センター方式の「私の生活史シート」「私の暮らし方シート」「私のできること、できないことシート」等を用いて利用者の全体像の把握に努めておられる。入居後は、日々のケアの中、ご家族、又、面会者から得た情報を、伝達簿や申し送り、ミーティングにて、職員間で共有されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 部屋になじみのダンスや椅子などを持ってきていただき、家で生活していた環境と同じように安心して生活できるように努めている。また、家族の写真や手紙など部屋に飾ることにより、安定した生活を図っている。本人や家族、医師(情報提供・意見書・看護介護要約等)からの情報の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) アセスメントの段階でたくさんの情報を頂き性格や生活暦など把握するよう努めている。現在の状況を踏まえ、本人の残存能力を活かせるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>3ヶ月ごとのカンファレンス、3～6ヶ月ごとのモニタリング、変化があるときの見直しを行っている。本人家族、主治医、職員の意見や情報を取り入れるように努めている。職員全員での話し合い・介護計画の作成を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>3ヶ月毎にモニタリングを行い、介護計画を見直しておられる。日々の個別の経過記録は、介護計画に基づいた記録に努めておられるが、事業所では今後、「介護計画に沿ったケアが実践できているか」ということがより明確になるよう、「経過記録の記入の仕方を工夫したい」と考えておられた。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>介護計画に基づいた日々の個別記録に努めている。情報共有の徹底の為、伝達簿を活用している。これらを介護計画の意見や実践に生かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>遠距離利用者の場合、利用料金の郵送(本来は毎月支払いに来て頂く)他科受診の介助、衣類の購入等も対応し、既存のサービスに捉われないようにしている。買物・外出・ドライブ・散歩・デイサービス合同レク等、一人一人のニーズに応えられるように努めている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、 納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を 築きながら、適切な医療を受けられるように支援 している	(自己評価) 本人や家族の希望・要望を重視し、必要に応じた病院の受診に努めている。協力医療機関として福角病院、米田歯科(必要時往診又は受診)があり、月1回の訪問診療と必要時、受診できるよう支援している。	
			(外部評価) 現在、利用者は全員協力医療機関で診てもらっており、受診は職員が同行されている。他科受診の際は、ご家族が同行される場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や、状態変化に応じた支援を行えるようにしている。24時間体制で小規模多機能施設内の看護職員と連絡を取れるようにしており、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるようにしている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院された際には、情報提供を行い、入院後は病状を把握できるように面会や連絡をとるようにしている。早期退院に向けて、主治医、病院関係者と密に情報交換し、家族との調整も行っている。本人が安心して治療に専念できるよう努める。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末に対する見取りの指針を定め、事業所が対応しえる最大のケアに努めている。本人・家族の希望を重視し、主治医と密に連絡を取りながら方針を共有し事業所でできることを行っている。	
			(外部評価) 入居時には、ターミナルケアマニュアル(看取り指針)をご家族に提示して、説明されており、終末期のあり方について意向を聞き取っておられる。ほとんどのご家族は、「できるだけホームで長く見ていただきたい」と希望されていることを、事業所で把握されている。 管理者は、「医療機関や職員の夜間の支援体制等、状況が十分に整えば事業所での看取りは可能である」と考えておられる。看取り支援については、利用者やご家族の希望に沿った支援ができるよう、体制作り等、関係者と具体的に話し合う機会を作っていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 心肺蘇生法のポスターを目に付きやすいところに掲示している。H23年度はAEDの使い方を、GH内々と地域防災訓練で確認した。職員の移動等あり、訓練や講習を定期的にする必要がある。(職員の中には地域防災士がおり勉強会を行なった)	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災訓練を消防署より来て頂き年に2回実施している。利用者・家族・職員・運営推進会議の地域の方に参加を呼びかけ参加している。地域の防災士の協力や意見も訓練時や運営推進会議等で頂き、協力体制を築いている過程である。水害・地震については、具体的対策が必要である。	
			(外部評価) 年2回、防災訓練を併設事業所と合同で実施されている。昨年5月の避難訓練は、運営推進会議に合わせて行われ、メンバーの方達と一緒に地震・津波災害のビデオ等をみて勉強をされた。又、消防署の方からは、「人数確認を行う役割等を明確にする」こと、又、民生委員の方からは、「お互いの声かけをもっと行なった方がよい」等のアドバイスをいただいた。非常時の電話連絡網は、地区の自主防災組織に直結されている。事業所には、AED(自動体外式除細動器)を設置されており、防災士の資格を持つ職員の指導を得て、職員はAEDの使い方を学ばれた。又、地震・風水害・溺水対策等、非常災害マニュアルを整え、災害に備えて自家発電機を用意されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人情報保護、プライバシーの保護について、方針を掲示し、常に意識できるようにしている。十分な説明を行い、同意書を頂いている」。丁寧な言葉かけをし、職員同士の会話においても十分注意している。部屋に入る時は必ずノックをする。排泄、入浴、更衣時は特に配慮している。	
			(外部評価) 脱衣所で入浴の支度等をしている折、他の利用者等が不意に戸を開けても、利用者の姿が見えないよう、つい立を立てておられたり、又、トイレ介助時、利用者が排泄する間、職員は、カーテン越し、またはドアの外で見守るようにして、プライバシーに配慮されている。利用者の得意な、ボタン付けや繕い物、雑巾作り、洗濯物たたみ、炊事等を行う場面を作り、職員はご本人が行なってくださったことに感謝の気持ちを伝え、利用者生きがいや誇りを感じてもらえるよう支援されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者に合わせて声かけし、あせらさないで、本音をできるだけ言えるよう配慮している。意思表示が困難な方には表情や個人を知ることできみ取れるよう努めている。日常、些細なことでも本人が決めるようにしている。(食べ物・衣類・居場所)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 今までの生活習慣や一人一人の体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを重視し、他者との関係や、全体の状況を踏まえた上でできるだけ柔軟に対応している。一人ひとりの個性やペースを大切に支援を心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その人の好みや似合うものを選び、身だしなみや、おしゃれに無関心にならないように、手洗い時、起床時や入浴後など鏡も利用して、身だしなみ、おしゃれを楽しんでいただいている。カットや、爪きり耳掃除等にも配慮している。入浴日以外の下着の清潔等必要に応じ交換している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 作物の収穫、買物、調理、配膳、片付け等負担にならないように、できるだけ一緒に行っている。食べたい物を聞いて添えるよう配慮。特に誕生日等は、好みのものを作るようにしている。	
			(外部評価) 利用者と一緒に食材の買い出しに出かけられたり、事業所の菜園で採れた野菜も使って食事作りをされている。職員は、利用者に魚のさばき方等、調理法を教わることも多いようだ。箸、お茶碗、湯飲みは、利用者一人ひとりの使い慣れた馴染みのものを使用されており、調査訪問時の昼食は、酢の物をガラスの小鉢に盛る等、季節感や彩りにも工夫が感じられた。昼食前には、誤嚥防止のために口腔体操を行なっておられ、食がすすみにくい方には、のど越しの良いゼリーやプリン等をお付けしたり、食材も食べやすいよう刻む等されていた。調査訪問時、職員からのプレゼントのエプロンを着けて、後片付けや食器洗いをされている利用者の様子がみられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 10時15時にはおやつ時間を設けている。また随時水分摂取等を行なっている。必要に応じペットボトルに白湯を入れて、いつでも飲めるように配慮している。食べる能力に応じ、粥、キザミ、トロミ、エンシュア等対応している。また摂取量・(水分)チェックも行なっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の歯みがき等の声かけを行い、職員が見守り、必要時介助を行なっている。就前に義歯をはずしポリドントにて洗浄を行なっている。食事前にも出来るだけうがい等行なっている。今年訪問歯科より口腔内の衛生と検診を実施したり、昼食前に嚥下体操を行なっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) それぞれの残存能力や状態を考慮しながら、オムツに頼ってしまわないようできるだけトイレでの排泄を促している。トイレの訴えない利用者にも、時間を見計らって誘導している。夜間も睡眠状況や歩行状況等みながら、自立できるよう見守りトイレ誘導を行なっている。	
			(外部評価) 入居当初、居室の隅っこに排尿される方がおられたが、その場所に敢えてお孫さんの絵を飾る等して、排泄する場所ではないことを示し、環境作りに工夫して取り組みをすすめられた。トイレへ案内することを繰り返し、現在は、トイレで排泄されている。職員は、申し送り時に、利用者個々の排泄状況を把握して、意識して支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給や食事に食物繊維の多いものや、乳製品を取り入れる等、努めている。できるだけ自然に排泄ができるように心がけている。個々に応じた下剤の調整や、4日以上でない場合は指示により浣腸対応している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 業務の関係で、曜日、時間を概ね決めざるを得ない状況だが、少しでも希望やタイミングに合わせれるよう対応している。湯の温度、入浴剤、ゆったりと入っていただけよう配慮している。	
			(外部評価) 職員は、利用者の背中を流しながら、利用者の昔話に耳を傾けたり、お好きな入浴剤を入れる等、くつろいで入浴できるよう支援されている。車椅子を使用する利用者の方も、職員2名で介助して湯船で温まれるよう支援されている。事業所では現在は、週に2回の入浴となっているが、「利用者主体の入浴支援になっているか」という点について、職員で話し合ってみる機会にされてはどうか。利用者の好みや習慣等を支援に採り入れていかれてほしい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動を検討し生活のリズムを整えている。今までの習慣を考慮し、一人一人に合った、休息や睡眠を支援している。また室温、照明等も、個々に合わせている。安心できる会話、ホットミルク、マッサージ、足浴、必要時眠剤を服用している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬マニュアルを作成している。誤飲、飲み忘れなどないように、服薬する際には必ず最低3回の確認をしている。特に処変時等は状態の変化の確認、記録、報告に努めている。処方箋を常に見れるようにしている。必要時薬剤師に問い合わせている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食後のコーヒーを飲む、新聞、本を読む、テレビを観る、好みの物を買う、手遊びをして過ごす、食事の準備、洗濯物たため、散歩、ドライブ等一人一人に応じて支援している。強制や負担にならないよう、本人の気持ちを重視して対応するよう努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人一人の希望や必要、天候や状況に応じ、季節や外気を肌で感じていただけるように、野菜の収穫、日光浴、花や夕陽を見る、風に当たる、散歩、ドライブ、買い物等支援している。お墓参り、薔薇園、道の駅、県外の兄弟宅等関係者の協力を得て外出している。	
			(外部評価) お花のお好きな利用者も多く、梅や紅葉等、四季折々の花や自然を楽しめるよう、外出されている。時には、お弁当持参で出かけることもある。調査訪問時に来られていたご家族が、「近々お墓参りと外食に連れて行きたい」と、管理者に話しておられた。	職員は、「今後さらに、外出の機会を増やして、気晴らしやリフレッシュをしていただきたい」と話しておられた。ご家族からも「どんどん連れ出してほしい」との声もあるようだ。地域行事への参加等、利用者が地域の中に出かけていくような機会を積極的に作ったり、個々の思い出の場所や懐かしいところに出かける機会も作ってみてはどうだろうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在はほとんどの方が事務所で職員が管理している。数千円自己管理されている方もおられる。外出時には利用者の方に渡し、払っていただけるよう工夫したりしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望や必要に応じて電話をしたり手紙を書いたりしていただいている。家族との関係がよりよいものとなれるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 玄関やリビングなどは季節感を感じていただけるよう花などを飾っている。日勤帯・夜勤帯で掃除を分担、汚れたらその都度こまめに掃除し、清潔で快適に生活していただけるよう努めている。冷暖房、照明、消臭、換気等、工夫調整している。落ち着いた空間で生活できるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 事業所は、青田が広がる静かな場所に位置しており、周辺の環境に馴染んでいる。居間の畳の間から菜園が眺められ、利用者は野菜の成長を楽しみにみておられる。現在は、ゴーヤ、キュウリ、プチトマト等が実を付けていた。ご家族が定期的に庭の手入れに来てくださっており、去年は桃がたくさんの実を付け、みんなで堪能されたようだ。居間には、七夕の笹飾りを飾っておられ、利用者や職員の願いごとを書いた短冊が吊るされていた。壁には、利用者の習字作品や併設のデイサービスの1ヶ月の予定表を貼っておられ、利用者は琴の演奏会等、楽しみに参加されている。今年は、事業所の桜でお花見をされ、中庭でバーベキューを楽しまれた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 玄関にベンチ、中庭にウッドデッキ、リビングにソファなどくつろげる空間を作っている。花や写真、置物、本などを置き、居心地のよい空間作りに努めている。また車椅子も動きやすいよう、家具等の配置を考慮している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 出来る限り本人の好みや馴染みのものを持ってきていただき、居心地よく過ごせるように努めている。また、家族の写真や陶芸や書道等の自作の物を飾っている。</p> <p>(外部評価) 「ご本人がわかりやすい」ということもあり、居室の入り口には、入居前、入院していた病室の表札を掛けている方もある。ご夫婦で入居されている方は、一部屋を寝室にされ、もう一部屋は、家具やテレビを持ち込まれていた。娘さんの書道作品を壁一面に貼っておられたり、ご家族との思い出の写真やひ孫さんの写真を飾っている居室もみられた。各居室に洗面台が設置されており、食後利用者は各自、歯磨き等をされていた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) つまづき防止にテープを貼ったり、手すり、スロープを付け足したり、トイレやベッドの位置関係の検討、環境整備に努めている。混乱や失敗が生じた場合、その都度職員と話し合い、不安や迷いを取り除き安全で安心して出来るだけ自立した暮らしが出来るよう努めている。</p>	